



No. 289

2010. 6.25. 発行

あこら札幌 連絡先
011-644-2927 細田

今月通信担当

《 今 月 の 内 容 》

- * エコそれともエゴ 風力発電は誰のため・・・1～2頁
- * しょせんパーチャル? なのかな・・・3頁
- * 今年、3度目、4度目の旅 天国と過酷その1・・・4～5頁
- * 情 報 6頁

通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570あこら札幌

エコそれともエゴ 風力発電は誰のため

うさぎとかめ

「環境にやさしい」イメージでだんかつの風力発電。

ところが2年ほど前から、風力発電の建設をめぐる、全国各地で住民と開発業者、自治体をまきこんで紛争が起きています。札幌市手稲区に近接する小樽市銭函4、5丁目の海岸線でも、巨大風力発電の建設が進められようとしています。

新川河口から、石狩湾新港の樽川埠頭にかけての海岸は、初夏にはハマナスなどの海浜植物が生い茂る自然の宝庫です。

昨年5月、この海岸線に一基2000キロワットの風車を20基建つ計画が、突如、発表されました。

事業者は、日本風力開発(東京)。同社は総事業費を公表していませんが、約150億円から200億円といわれています。風車は、日本製鋼所が製造したものを使い、蓄電池をつけて、発電した電力を首都圏に売ります。道内では、稚内に次いで二番目の規模になります。大都市の近くで、これほど数多くの風車が建つ例は全国で初めてです。

私は石狩市の自然観察会グループの会員からの相談を受けて、昨年クリスマスころから、この風力発電計画について調べ始めました。調べるうちに、さまざま問題点が見えてきました。



【同題点その1】住民無視

風力発電の建設には、国からの補助金がつきます。自治体やNPOは半分、民間事業者は3分の1です。

補助金の申請は、2008年度までは、経済産業省とNEDOが担当していました。しかし、2009年度からは、経済産業省が、一般社団法人・新エネルギー導入促進協議会を通して、補助金の交付先を決めています。

この補助金の交付先は、インターネットのホームページで公表されていますが、補助金の金額は非公開です。なぜ公表しないのか、新エネ協議会に聞くと、「私たちは民間会社。建設費は企業秘密なので、公表できない」との回答です。経済産業省にたずねると、「補助金の交付先は新エネ協議会に任せている」という。補助金に国民の血税を使っておきながら、どこにいくら配ったのかは公表しないのです。

ところで、この補助金を受けるには、条件があります。その中のひとつが「地元合意」です。公募要領では、建設地近くの住民組織に対して説明会を開き、何が話し合われたのか議事録の提出が求められています。

しかし、日本風力開発は、地元の小樽市で、住民説明会が開いていません。申請では、石狩湾新港工業団地の立地企業の連絡

組織のひとつ、「札幌新港西自治会」で説明会をしたそうです。この自治会が曲者で、「西自治会」は、企業の代表者の集まりで、居住者の自治会ではありません。出席者によると、「今度、風車を建てますが、よろしく」とのあいさつ程度のものであったそうです。

実は、建設予定地から最も近い住民は札幌市手稲区の人たちです。しかし、事業者は小樽市だけに同意をとり、札幌市にまったく連絡をとってきませんでした。もちろん、手稲区内でこれまで一切住民向け説明会を開いていません。

つまり、事業者の補助金の申請は、いい加減なものだったのです。ところが、新エネ協議会は、十分な審査を行わず、昨年七月に補助金の交付決定をしてしまいました。補助金は、完成までの四年間で約38億円という巨額なものです。

私が新エネ協議会に質問したところ、交付決定した担当者は、銭函が小樽市街地より札幌市手稲区に近いことを認識していませんでした。要するに、地図さえ見ていませんでした。おまけに、この正直な担当者は、ほどなく「長期休業」してしまい、連絡がとれなくなりました。

実は、このように周辺の住民に情報公開をせず、首長や地主の了解だけをとって、補助金の交付を受ける例が全国であつてをたちません。こうした住民無視の態度が、低周波被害をさらに助長していると思います。

【問題点その2】低周波の恐ろしさ

風力発電で、いま、注目されているのが、低周波による健康被害です。2、3年前から、マスコミでも取り上げられるようになりました。耳鳴りや頭痛、血圧の変動、いらいら感など、さまざまな症状に苦しめられているそうです。人間だけでなく、金魚が大量死したり、飼い犬が気が狂ったように吠える、奇形の牛の誕生など動物にも影響が出ているようです。私が話を聞いたのは、静岡県東伊豆町の被害者です。ここでは、天目山の尾根沿いに風車が10本建っていて、半径一キロ圏内の住民たちに、耳鳴りや頭痛、不眠などの症状が出ているそうです。風車が回っている

間は、ずっとこれらの健康障害が続きます。トラブルで風車が止まると、症状はピタっとおさまるそうです。この風力発電を建設したのは、根室市に本社のあるクリーンエナジーファクトリーです。住民に公表されないうちに、建設がどんどん進んでいったそうです。

銭函は東伊豆の2倍の20基。もし風車が稼動したら、非常に高い確率で手稲区山口地区の住民の何人かは健康障害が発生するでしょう。住民に健康被害が出たときに、責任をとるのはだれでしょうか。おそらく日本風力開発は、風力発電と健康障害は因果関係がない、と抗弁して、責任を認めないでしょう。結局、健康被害が出た人が泣きをみるのです。水俣病や薬害エイズ、B型肝炎の例もあるように、最終的に賠償の費用を出すのは、国、つまり国民です。風力発電のもうけは、日本風力開発と、風車の固定資産税が入る小樽市が受け取り、札幌市の住民は健康被害のリスクを負うのです。

【問題点その3】お役所の無責任体質

建設予定地は、小樽市の行政区です。でも、一番近い場所に住んでいるのは札幌市民です。小樽市役所に誠意があるのなら、事業許可を出す前に、札幌市に相談すべきでした。札幌市も、この計画を知りうる立場にあつたのですから、小樽市に問い合わせるべきでした。両者とも、反対運動が表面化するまで、「知らんぷり」でした。公務員はだれのために仕事をしているのでしょうか。

【問題点その4】

風力発電が作られる場所は、辺境です。札幌市手稲区山口の住民の問題としてとらえるのではなく、札幌市民全体の問題として感じてほしい。「手稲区山口の住民に健康被害があるかもしれないけれど、うちは銭函から離れているし、関係ないから。風力発電、エコでいいんじゃない」という考えでいいのか。市民の意識が試されています。

そもそも低周波の健康被害や、美しい自然を壊して建設される風力発電は本当にエコなのでしょうか。補助金を出してまで建設する意味はあるのか。このテーマについては、別な機会に書くことにしましょう。(おわり)

しょせんバーチャル？ なのかな…

「しょせん、バーチャルだから」
「顔も名前も知らない相手なのに」
オンラインゲームやネット上の人間関係
に対するそんな言葉に、ちょっと引っかけた。

だから、いいかげんでいいって？ 真剣に
考える必要ないって？ …そういうこと？

それ、ゲームの中の、実際には存在しな
い「作られた登場人物」を相手にするのと、
ごっちゃにしてない？

文字だけの会話で 実際の姿は見えなくて
も、向こう側にいるのは「生身の人間」なの
に…。

「ネットだから」「バーチャルだから」て
なんとなく、偏見なんじゃないのかなって。
たとえば、電話。

電話だって、相手の姿は見えない。
電話の声は、一度、電気信号に変えられたも
ので、リアルな人間が発した肉声じゃない。

手紙だって、文字だけだし…。
昔の雑誌って文通欄があったけど、そこで知
り合って文通始めて友だちになった場合は、
遠方であれば、顔を知らないままということ
もあったでしょう。

私は、雑誌の読者投稿のメンバー募集で、
サークルに入ったけど、メンバーは全国に
散ってるわけだし、会報ではペンネームで
呼び合ってたから、集会で顔を合わせられな
かったメンバーは「顔も名前(本名)も知らない
相手」なんだな…。

でもそれでも一応「リアルの付き合い」の
範疇だよな。少なくとも「バーチャル」とは
呼ばれないでしょう。

ネット上の付き合いだって、今だと画像
や動画を見ることもできるから、必ずしも
「顔のわからない相手」じゃない。

実際に皆で会う「オフ会」というものも
あるから、ネットで知り合った相手でも、オ
フ会などで実際に会って住所を交換して顔も
名前も知っているという状況も存在するわけ
で… (私はオフ会で知り合った友人もいま
す)。

…意外と、境界は曖昧な感じがする。

メールだけなのと、実際に会うのとでは、
リアリティが全然違う…というのは、確かに
あるのだけど。

文章だけだと伝わってこないものもあれ
ば、実際に会っていても、言葉にして伝えら
れないこともあるし…。

得られる情報の量と質の違い、なのかな…
とも考えた。

あと、「ネットは危険」匿名で騙そうとす
る人間がいるから…というのも聞くのだけど。
でも、「ネットだから」危険、なのではなく
て、ネット特有の危険がある、ということ
じゃないのかな？

リアルだって危険があるわけで、リアルに
だって、名前を偽って騙そうとする人間は
いる。

ただ、《ネットは、匿名だから、人を騙
したり、危害を加えることが、簡単にできる
し、そういうことが多くて当然》 ……
そんなふうを考える人間が多い、ことは問題
だと思し、実際にそうなる原因のひとつな
んじゃないのかな。

(あ、ネットは、自室のPCから接続でき
るから、「安全なホーム」にいる気分のまま
で、警戒心が持てない…という状況も、

「ネットは危険」なんだと強調しなきゃいけ
ない要因になっているのか。)

(柏原)

今年、3度目、4度目の旅

天国と過酷 その1

タカハシヨシエ

いま4度目の旅でフィリピンのスービックにある「バルナバ・マタニティクリニック」にきています。3度目の旅も、偶然まさかのフィリピンでしたが、今回は4度目の旅を報告します。

クリニックを主宰する「江里子さん」ご本人が産産される、ということで「産後のお手伝い」をしに、やって来ました。クリニックに着いた翌日も普通に診療されていました。予定日に達しているのに、なかなか生まれません。赤ちゃんはまだ、胎内のほうが好きなのでしょう。（結果的に日本に帰国し、無事「自宅出産」されました！よかった！）



ということで、私は「奨学生・ドナ」の実家を訪問することにしました。丁度3連休でドナは実家から今回の選挙・投票に行くとのこと。これ幸いと彼女の帰省に便乗することにした次第。大統領選から市会議員？選まで、かなりの人数が立起し、選ばれるらしい。昨年からの対立候補一族が皆殺しにあたり、今回初めて導入される「電子読み取り機」が不調だったり、焼かれたり、実に物々しい選挙だ。流れ玉になんて当りたくない！一昨年の9月には、バスで行けるところ（バヤン）まで行ったが、そこからの行程は途中でがけ崩れがあり、2～3時間待ったが、ついに諦めて帰路に着いた因縁のルート。再挑戦の旅である。今回は、バスではなく国民的乗り物「ジープニー」でバヤンまで行き、そこからドナの実家まで、次の「ジープニー」を待った。午前9時に着いたが、出発は11時だという。しかし、す

で、乗客と荷物で満杯状態。その中に運よく、私が寝泊りしているGuest houseのオーナー、テッシーのおじさんが乗っていて、多分「場所取り」をお願いしたのだと思う。私達はマーケット（バヤンとは、中心という意味で、ほとんど、マーケットがある）で、お土産や食材の買い物をした。とにかく暑い！冷房の効いたカフェなどは無い。まだ、1時間半もあるのに、となりの人と肌が触れ合うほどに窮屈で蒸し風呂状態のジープニーに乗り込んだ。こんな込みようなのに、これでもか、これでもか、と人と荷物が詰め込まれる。時々、意識して深呼吸しないと、苦しくなる。脳も溶け出しそう。「もうこんなに混んでいるのだから、出発して欲しい！」と思ったころ、1時間早く出発してくれた。途中、「アエタ」（先住民族）の子ども、3～4人が飛び乗り、屋根の上に。少しして、またジープニーが停まる。屋根の混み具合はわからないが「もう絶対無理！！」だって、おばあさんと幼児2人のスペースはどこにもない！・・・しかし、ここでミラクル。わが期待のドナ。テキパキと采配をふるう。まず、私の膝もとの荷物を更に奥へ（他人の荷物の上）。そして、ドナの膝上の荷物を私に。その空間に1人の幼児を。ドナの膝の上にもう1人の幼児を。でも、おばあさんはどうするの？おばあさん、お年寄りですよ！！しかし、おばあさんは馴れた様子でお尻を半分外にはみ出したまま、手すりにつかまり、そのまま出発！ミラクル!!!!

途中の風景は未だ「ピナツポ火山噴火後に見た被災



地そのもの」であった。指紋の溝に入るくらい細かい乾燥した火山灰が、ジーブニーに情け容赦なく入り込む。タオルを4重にして口を塞いでも、砂塵が入ってくる。1時間弱で、ドナの家の前に到着。家の前までジーブニーで来る事ができるとは思わなかったので、ほっとする。前回つまり1年半前は約1時間はこの山道を歩かねばならなかったのだ！2重の意味で「過酷」から開放された！

聞いてはいたが、ドナの家とその周囲は緑豊かで素晴らしい所だった。ガーデニングはドナの趣味で、いろいろな草花も植えている。アジサイがあったのにはびっくりした。

池もあり、セラピアの稚魚が泳いでいた。餌は米ぬかだという。鶏が所狭しと駆け抜けまわる。そのあとを、あまりにも小さいひよこが追いかける。卵を温めている親鳥もいる。卵を生む場所が決まっている訳ではない。鶏舎はない！人が卵を安全な所に集め、数が揃うと親鳥が暖めるらしい。適宜、人間が食べる。トリも適宜「鶏肉」になる。牛が8頭（子牛もいる）。ヤギが沢山。犬、猫、3～4匹。夕方少し涼くなってから裏山へ。ここかしこにマンゴウの木がある。付き会ってくれたドナの弟や姪、甥、そして、居候のアエタの少年がスルスルと木に登り、熟したマンゴウを沢山取ってくれた。歯で皮を剥いて食べる。美味しい！！市場では4回農薬のかかったものが売られている。これらは、「今もぎ」。そして無農薬。

ここで、敷地内に居住するドナの家族を紹介すると・・・

まず、本宅に、父母。生後3週間の赤ちゃんのいるドナの妹夫婦。20歳とその下の10歳の弟。隣家に母の弟と、その子どもたち（12歳の娘と10歳の息子）。さらに父の弟。また道路沿いにドナの兄の家。そ

して、アエタの父子。

これだけの大家族、大きな食卓でかわるがわる食事する。だいたい、1汁1菜。それに、前回のおかずの残りが供される。江里子さんから借りて読み出した本の事が思い出される。そこには、人間はもっと、小食になったほうが良い。1日2食。12時、18時。そして18時間置いてまた、翌日の12時。このような半日断食で、ほとんどの生活習慣病が治る、という。もちろん、何を食べるか、要件はあるが、ここでは割愛する。・・・そんな生活がここでは実現できそう。



それにしても、こんなに長い時間をドナと共有するのは始めてだ。1999年、ドナが5歳の時、父母、2人の兄とドナと妹、そして母のお腹の中には、今年10歳になる弟がいた。彼らは、オロンガポから1泊2日をかけて、徒歩で山を越え、何も無くなったこの被災地に入植した。夜は、かつて「アエタ」たちが住んでいた「小屋のようなところ」に、子どもだけ寝た。親は多分戸外に寝たのだろう。そして、10年をかけて「開墾」したのだ。

私のフィリピンでの3度目の仕事はピナツボ被災地の土壌改良。それは、不本意ながらケミカルな緩効性化学肥料の投入だった。それが不満で「被災地の改良に日本の葛（くず）を植えている青年」に会いに来た。彼の連れ合いが、当時赤ちゃんを抱く江里子さんだった。江里子さんとはそれ以来の付き合いだ。私たち（JICA）が大金をつぎ込んでもこんな素晴らしい農地にはできなかっただろう。それを、ドナの父母は成し得た。感服！！

その後も、天国と過酷は次々と私を襲う。

（続く）

INFORMATION

男女共同参画週間講演会

買い物、恋愛、仕事に“依存”する女性たち

講師：衿野未矢（作家）

日時：6月26日（土）午後1時~3時

会場：札幌市男女共同参画センター（北8西3、エルプラザ内）

入場料：800円（入場券の購入が必要。詳細は728-1255へ）

札幌自由学校「遊」連続講座

生？性？say！？ “性”ってなんだ！？

6月22日（火）19時～ 恋愛と性—小説を通してその核心に迫る（担当 雨宮恭子）
性について学ぶのは楽しい

8月10日（火）19時～ 映画に見られるセクシュアリティ（担当 玉村有紀）
「ジェンダー」や「セクシュアリティ」の観点から世の中を
とらえなおしたら、いろいろな事が見えてきた

8月24日（火）19時～ 性と生を語ろう～その1
ゲスト鈴木賢（北海道セクシャルマイノリティ協会）

9月21日（火）19時～ 性と生を語ろう～その2（*ゲスト交渉中）

*会場は自由学校「遊」（南1西5愛生館ビル2階 ☎252-6752）、受講料1回1500円

シアターキノ映画

「アメリカ—戦争する国の人々—」（2009/日本）監督/藤本幸久

戦争する国に暮らすということは、どういうことなのか……。映画「ONESHOT
ONEKILL」（下記参照）がその入り口を描いたものなら、この映画は若者たちのその後を
描いたもの。上映は7/24（土）・25（日） *シアターキノ 231-9355

「ONE SHOT ONE KILL—兵士になるということ—」

（2009/日本） 監督/藤本幸久

人は人を殺せるようには、できていない。では、どうすれば、普通の若者が戦場で人を殺せるよ
うになるのか・・・海兵隊新兵訓練所での普通の若者が兵士へと作られてゆく姿を追った、ドキュ
メンタリー作品。上映は7/26（月）～8/6（金）

<編集後記：私も一言>

先日、ラジオを聞くともなく聞いていると、『「僕ももてるんですよ。なぜかおばさんや子どもにね」と
自虐的に言うと自慢話のように反発されることもなくアピールすることができる』という話が耳に入った。
すぐさま「おばさんにもてるって自虐なの？」と鋭い突っ込みが飛んできたが見事に無視され、まるでその発
言はなかったかのように話は進行していった。発言は「頭がいい人、悪い人の話し方」というベストセラー
を書いたゲストの樋口 裕一さん（作家・多摩大学教授）で、突っ込んだのはNHK「どよう楽市」のMC残間
里江子さんだ。小論文の分野で有名なこの59歳のおじさんの想像力の欠如ぶりにはあきれてしまった。

（少なくとも失礼なことを言ったり発言を無視したという認識はかけらもないようだった。）

こんなことを書くと“おばさんのひがみ”といわれそうだが気がなったので……。 (K.S)